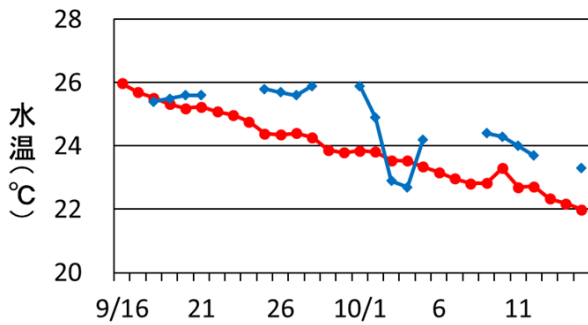


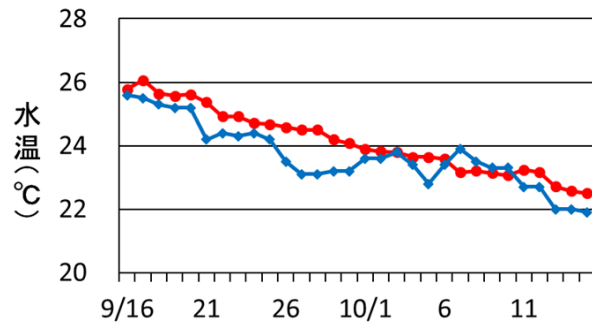


〔海の状況(9/16~10/15)〕

- ・小川地先の表面水温… 期間を通して平年並み(平年差±0.5℃)からかなり高め(平年差1.0~1.5℃)で推移した。(図1)
※平年は、神子地先の過去30年平均
- ・米ノ地先の表面水温… 期間を通して平年並み(平年差±0.5℃)から平年よりやや低め(平年差-1.0~-0.5℃)で推移した。(図2)



◆ 本年 ● 平年(過去30年平均)
図1. 若狭町小川地先における表面水温の推移



◆ 本年 ● 平年(過去20年平均)
図2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況:9月〕

9月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層(0m)では若狭湾の一部及び京都の沿岸から沖合で、26~28℃と前年より低くなっていた。水深50mでは、京都府の沿岸から沖合で20~22℃、嶺北から石川の沖合で18~20℃と前年より低くなっていた。水深100mでは山陰・若狭沖の冷水域の規模が前年より大きく、また、沿岸に近づいていた。(図3)

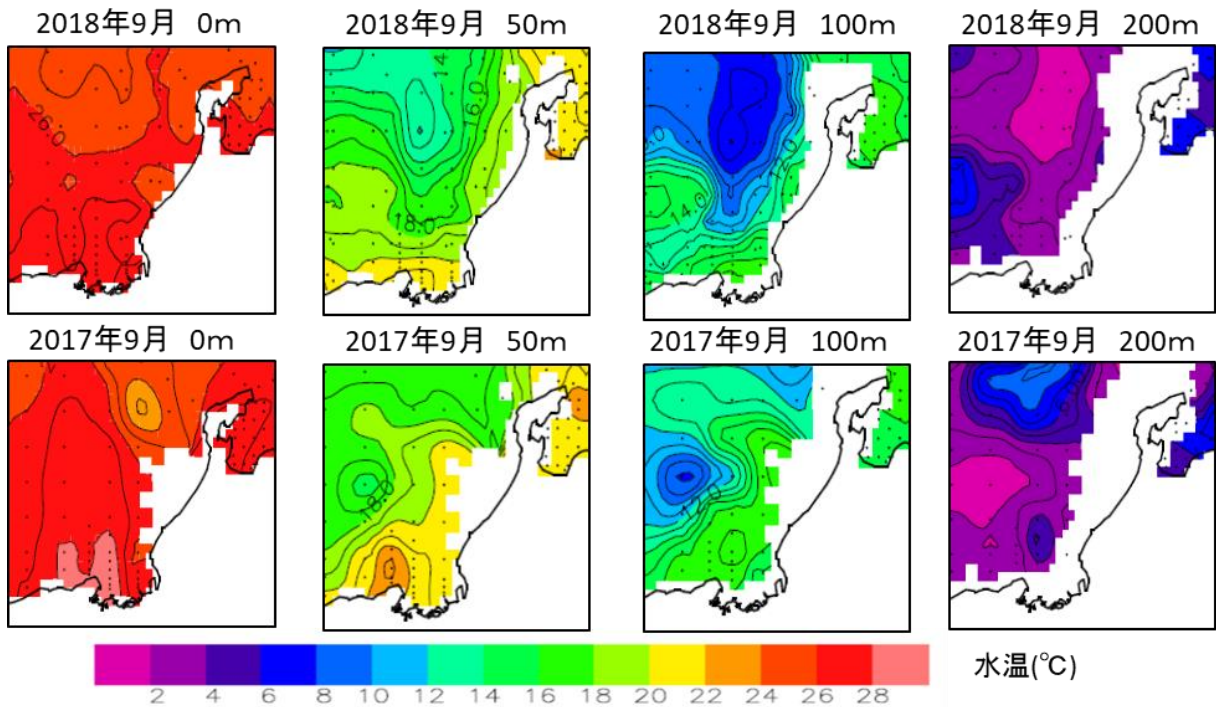


図3. 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図(日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

平成30年度 第3回 日本海海況予報

水産研究・教育機構 日本海区水産研究所から発表されました見出しの予報に、今後(11~12月)に関する情報がありますのでご紹介します。

- 山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、かなり大きくやや接岸で経過する。
- 対馬暖流域の表面水温は、やや高めで経過する。
- 対馬暖流域の50m深水温は、日本海北部及び西部ともに平年並みで経過する。

この予報は日本海区水産研究所ホームページ(<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/index.html>)からも閲覧できます。
(漁場環境グループ 山下 慎也)

〔県内の漁模様：9月〕

2018年9月の県内の総漁獲量は1,238tで、昨年同月と比べて130t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は876tで、昨年同月と比べて94t上回った。サバ類、ヒラマサ、サワラ等は上回り、アジ類、ブリ類、シイラは下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は314tで、昨年同月と比べて53t上回った。アカガレイ、その他カレイ、キス類等は上回り、キダイ、スルメイカ、アカエビ等は下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は48tで、昨年同月と比べて16t下回った。アジ類、シイラ、キダイ等は上回り、メバル類、ケンサキイカ、ソデイカ等は下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(9月)

定置網	(kg)				
魚種名	2018年	2017年	平年	前年差	平年差
マイワシ	1,748	1,452	266	296	1,483
アジ類	14,088	57,548	55,155	-43,460	-41,067
サバ類	16,394	4,635	15,704	11,758	690
カジキ類	6,228	3,520	10,700	2,708	-4,472
カツオ類	1,263	4,468	2,038	-3,205	-775
ブリ類	57,203	60,114	122,440	-2,911	-65,237
(ブリ)	82	596	136	-514	-54
(ワラサ)	292	4,217	10,607	-3,925	-10,315
(ハマチ)	2,119	8,939	14,156	-6,821	-12,038
(ツバス)	35,709	27,392	78,132	8,317	-42,423
(アオコ)	19,001	18,969	19,408	31	-407
ヒラマサ	7,149	818	7,763	6,331	-614
シイラ	81,289	142,750	99,300	-61,461	-18,011
サワラ	663,103	452,269	422,999	210,834	240,104
マダイ	1,674	3,828	2,548	-2,154	-874
スズキ	5,518	1,696	1,999	3,822	3,519
カマス	2,798	5,327	17,845	-2,530	-15,038
フグ類	1,462	7,264	5,715	-5,802	-4,254
ケンサキイカ	3,723	3,134	6,336	590	-2,613
その他	12,420	33,358	33,950	-20,938	-21,530
合計	876,059	782,181	804,756	93,878	71,303

底びき網	(kg)				
魚種名	2018年	2017年	平年	前年差	平年差
アジ類	1,091	308	427	784	664
キダイ	13,825	16,041	12,357	-2,216	1,468
アマダイ	895	1,198	1,018	-302	-122
アカガレイ	80,668	65,416	88,225	15,252	-7,557
その他カレイ	25,378	19,321	34,226	6,057	-8,849
アナゴ	8,045	3,865	4,192	4,180	3,853
ハタハタ	672	418	2,538	254	-1,866

底びき網の続き	(kg)				
魚種名	2018年	2017年	平年	前年差	平年差
メバル類	1,102	1,389	1,328	-286	-226
キス類	28,635	13,714	11,808	14,921	16,826
スルメイカ	2,058	2,924	1,715	-866	343
ケンサキイカ	1,816	56	2,300	1,759	-484
ヤリイカ	1,415	656	1,459	759	-44
タコ類	5,236	3,318	6,820	1,918	-1,584
アカエビ	72,143	79,564	65,130	-7,420	7,013
その他エビ	3,969	4,679	5,561	-710	-1,592
その他	66,710	47,961	72,024	18,750	-5,314
合計	313,658	260,826	311,128	52,832	2,530

釣り、延縄、さし網、その他の漁法	(kg)				
魚種名	2018年	2017年	平年	前年差	平年差
アジ類	3,619	152	537	3,467	3,082
サバ類	1,258	55	43	1,203	1,214
ヒラマサ	640	348	338	291	302
シイラ	3,003	28	18	2,975	2,985
サワラ	808	1,006	344	-198	464
マダイ	1,387	1,430	2,263	-43	-876
キダイ	7,382	4,878	7,232	2,504	150
アマダイ	4,086	3,882	4,618	204	-532
メバル類	722	4,441	3,173	-3,719	-2,451
ケンサキイカ	1,109	2,209	4,424	-1,100	-3,315
ソデイカ	4,808	7,863	9,436	-3,055	-4,628
タコ類	2,106	2,104	3,609	2	-1,503
その他	17,396	36,204	37,227	-18,807	-19,831
合計	48,324	64,600	73,263	-16,275	-24,939

全漁法	(kg)				
魚種名	2018年	2017年	平年	前年差	平年差
合計	1,238,041	1,107,607	1,189,147	130,435	48,894

※1 平年の値は2008-2017年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：9月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：9月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：9月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：9月中旬～10月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…サワラ類13.7t、フクラギ・コヅクラ(1kg以下のブリ)2.0t、マアジ0.7t、マイワシ0.6t、サバ類0.6t
 京都府…定置網…サワラ類8.1t、ツバス2.2t、アオコ1.9t、シイラ1.7t、マアジ0.5t、カタクチイワシ0.2t
 兵庫県…定置網…マアジ72kg、ツバス(1.5kg未満のブリ)20kg、カワハギ16kg、シロイカ(ケンサキイカ)16t
 鳥取県…まき網…マイワシ29.9t、マサバ9.4t、ブリ類5.3t、ウルメイワシ2.8t、マアジ1.9t、カタクチイワシ1.2t

(漁場環境グループ 山下 慎也)

「越前がに」の資源状況について

今年も、11月6日に福井が誇る「越前がに」漁の解禁を迎えます。調査船「福井丸」により実施したトロール調査結果を基に、本県沖合のズワイガニ資源量を推定しましたので、お知らせします。

漁獲動向（図1）

福井県底曳網漁業協会の集計による漁獲量の経年変化は、最低であったS54年度以降は増加傾向となり、近年は400～500tで推移しています。H29年度は、秋の荒天の影響により雌の漁獲量が減少し、水揚げがH28年度より32トン減少しました。

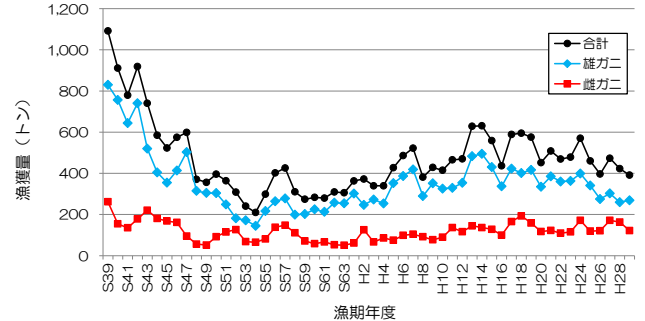


図1 ズワイガニ漁獲量経年変化

資源状況（図2）

雄についてみると、今漁期の漁獲の主体となる12歳の資源水準は昨漁期並みですが、今漁期から水ガニとして漁獲の対象となる11歳の資源水準は昨漁期よりやや高い状況にあると考えられます。今漁期に漁獲対象となる雄の資源量を推定したところ、2,314tと算出され、昨漁期と同程度となりました。

また、雌についてみると、今漁期から漁獲の対象として加入するクロコ（経産ガニ）の資源水準は昨漁期よりやや高い結果となりました。今漁期に漁獲対象となる雌の資源量を推定したところ、昨漁期と同程度の286tと算出されました。

漁模様

今漁期は、漁獲の主体となる雄の資源は昨年並みですが、今漁期に漁獲対象として加入する年級群が昨漁期よりも多いと推測されるため、雄の漁獲量は“昨年並み～やや上回る”と見込まれます。

一方、雌の漁獲量は“昨年並み”と見込まれます。

（漁業管理グループ 瀬戸久武）

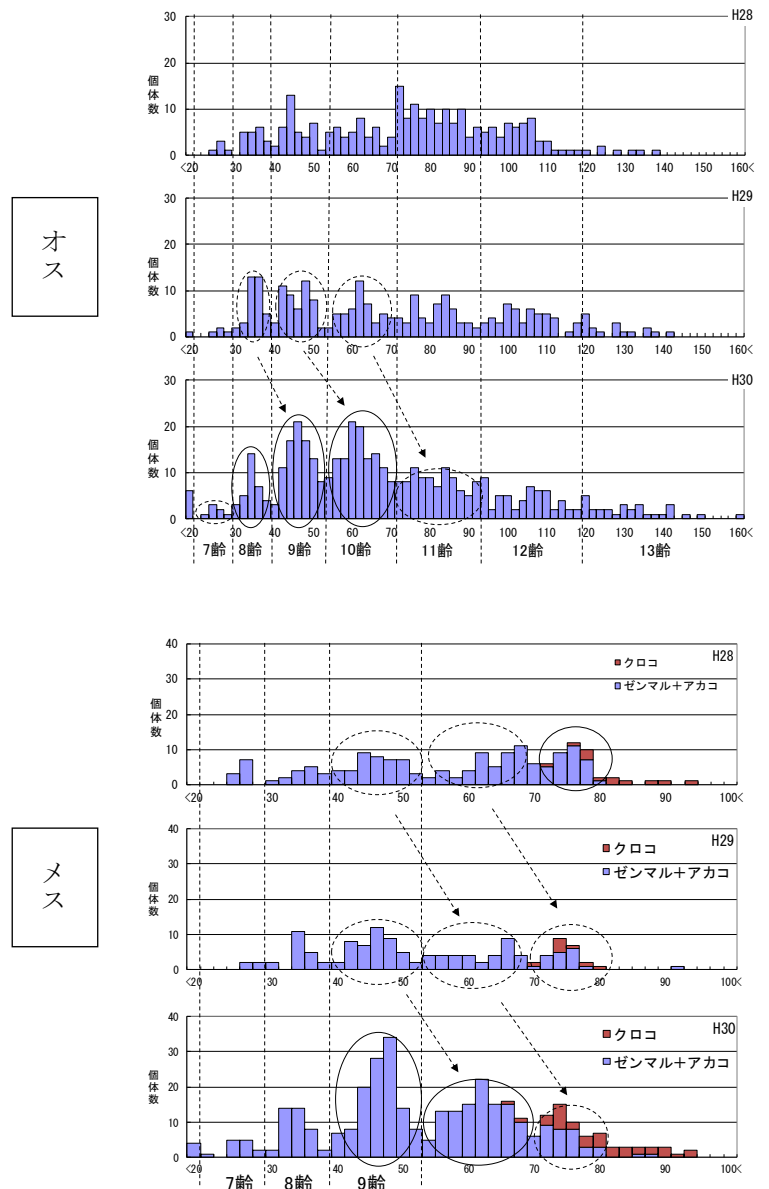


図2 トロール調査で採集したズワイガニの甲幅組成 (X軸: 甲幅 mm Y軸: 個体数)